

## （件名）コロナ禍の変化を捉えタイ市場のこれからを考える

2019年6月にタイに赴任し、この3月で駐在期間が終わりました。私からの最後のレポートは、コロナ禍での変化を捉えながら、これからのタイ市場における北海道の可能性についてお伝えしたいと思います。

### 1 タイ人富裕層の購買力は変わらない、タイは引き続き取り組むべき市場

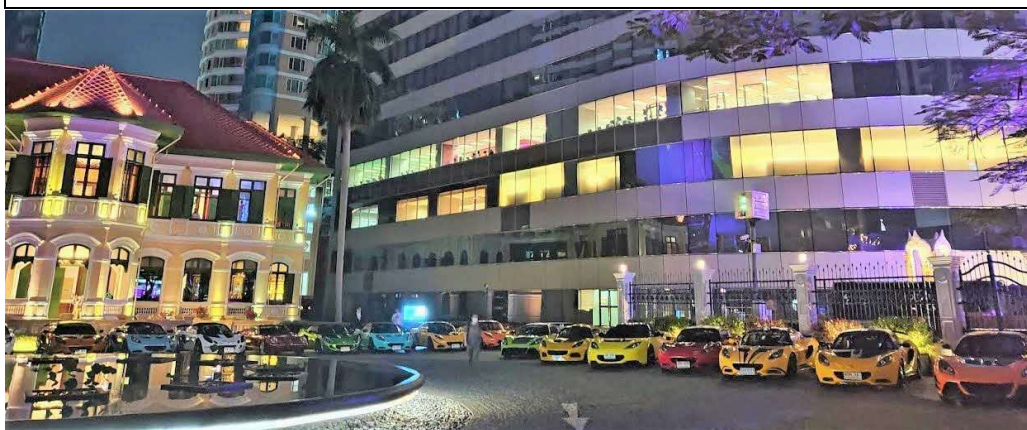
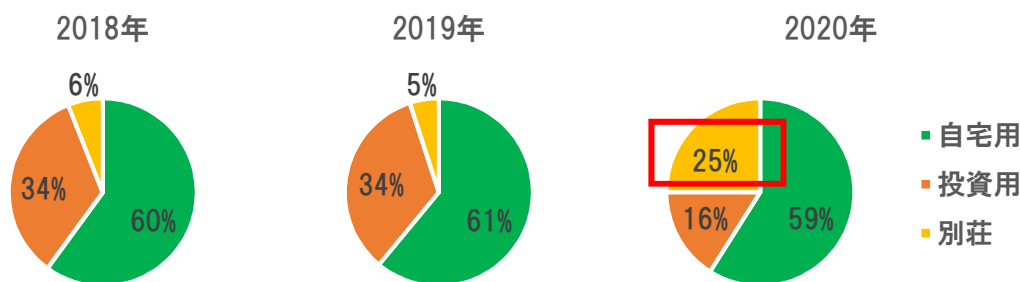
タイの一世帯当たり GDP（2019年7,807米ドル／出典：世界銀行）は日本（同40,247米ドル）の5分の1であることから、道産品の輸出やインバウンドの誘致を考える上では高所得者層、富裕層にターゲットを絞ることが必要ですが、コロナの影響による変化はあったのでしょうか。

コロナ禍の富裕層の購買力について、タイの主要メディア（クルンテープシルキット新聞）が報じたニュースによると、富裕層の不動産購買動機に関する統計に変化が見られ、旅行に行くことが出来ない代わりに国内で別荘を購入する人の割合が急伸したとのこと。

また、バンコク中央銀行の不動産登録料（土地や建物を購入した際に発生）の統計を見ると、2020年第4四半期にコロナ前の水準まで回復しており、コロナ禍においても高所得者層、富裕層の購買力、娯楽や余暇への興味関心は変わらず存在することが予想され、引き続き、タイは有力なマーケットとみても良いと考えます。

これまでお伝えしてきたように、食や文化を中心に日本が大好きな国民が多く、北海道の知名度も非常に高いタイは、今後も本道の海外戦略を検討する上でターゲット国の一つとして候補になることは変わらないと考えられるでしょう。

【ハイエンド層の不動産購入動機のアンケート調査結果（出典：クルンテープシルキット紙）】



高級レストランに同じ型のスポーツカーで集まるタイの富裕層（※車のイベントではない。）  
（2020.12撮影）



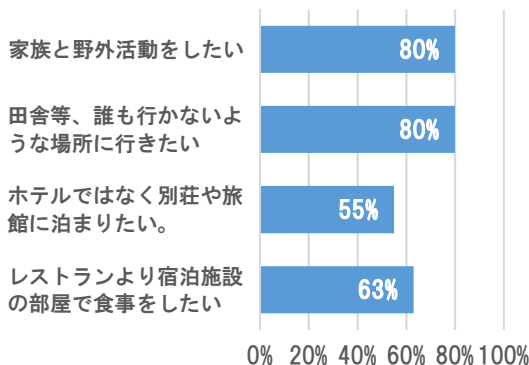
報告者：副所長 小林 涼太郎

### 2 往来再開後の旅行はよりパーソナルに、多言語でどれだけ安心を伝えられるかが鍵

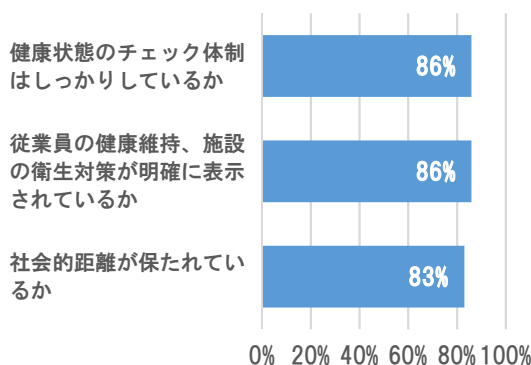
Booking.com が 2020 年 11 月に調査した「タイ人が希望する旅行の内容」に関するアンケート結果によれば、回答者の 8 割が旅行の目的を「家族との野外活動」と答え、行き先についても 8 割が「田舎や誰も知らない場所」を希望、宿泊の際には 55% の人が「ホテルよりも別荘や旅館」、食事は 63% の人が「レストランよりも宿泊施設の自分の部屋の中で食べる」と答えたとのこと。北海道の特色を活かせるポイントも見られますが、大人数を収容しバイキング形式の食事を提供するスタイルのホテルについては、このアンケートから見ると工夫が求められると考えられます。

【タイ人の旅行の内容に関するアンケート調査結果（抜粋）（出典：Booking.com/2020.11）】

#### 旅行の形態



#### 観光施設に求める事



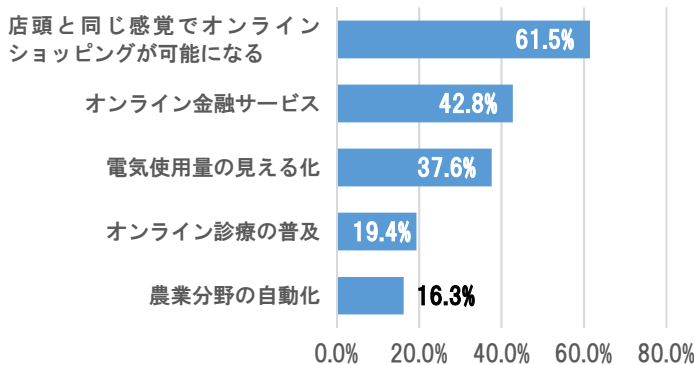
ここで重要なことは、**関心の高い感染対策の内容を多言語で伝えなければいけないこと。**

### 3 モノの購入はオンラインへ移行、輸出拡大のためには最新の IT 技術を取り入れる

タイ国民のインターネット利用時間が世界トップクラスに長いことは 2020 年 3 月号でお伝えしましたが、タイにおいても通信環境の高速化が図られており、5G に移行しています。国が約 22,000 人の国民に行った調査によると、5G を利用すると答えた国民が 85.3% にのぼり、その内、期待するサービスとして最も多く回答があった内容が「店頭と同じ感覚でオンラインショッピングが可能になる（61.5%）」でした。アジア大手求人サイト「JobsDB」の統計では 2020 年のタイ人一般職の給与水準で「IT 人材」が最も高額になったことから、タイの IT 化が進んでおり、道産品の輸出拡大のためには、IT 技術を活用した商品の販売手法について、常に情報収集しておく必要があると考えます。

【タイ国民の 5G に対する意識調査（出典：タイ国家統計局）】

#### 5G に求めるサービス（上位回答）2021.3 発表



#### 【タイでの IT 技術を活用した販売手法】

バーチャル空間上の展示会（VR）、QR を読み取り商品説明や産地情報がスマートフォンに映し出されるアプリ（AR）、EC やデリバリーフードにおいて配達員の位置を常に確認出来るアプリ（GPS）等。

他にも、ブロックチェーン技術によって偽物か本物かの区別がすぐにわかる仕組みや、鮮度管理が厳格に行われる仕組みが開発されている。



報告者：副所長 小林 涼太郎

#### 4 タイと北海道の共通点を活かした多様な産業での連携の模索を

2019年9月号でレポートしましたが、タイ国民が最も多く従事する産業は一次産業であることから、北海道の特徴である一次産業の技術を活かした交流や、前項のアンケート結果にもあったよう農業に関する最新技術をお互い協力して開発する等が考えられると思います。

また、タイ国家経済社会開発委員会の発表によれば、タイの出生率は既に日本並み（1.4）であり、人口は2028年にピークを迎え減少に転じ、2040年には60歳以上の人口が全体の3割に達すると予測され、少子高齢化時代に突入します。北海道でも少子高齢化が進んでおり、なかでも高齢化の影響で介護需要が大きくなり、海外からの担い手に頼り始めているところですが、将来的には需要が小さくなる局面が訪れることから、タイへの進出も視野にビジネスプランを検討し、今から市場調査やタイ進出の準備を進めることも選択肢として良いかもしれません。もしくは、今からタイの介護人材を北海道で育て、将来的にビジネスパートナーとしてタイ事業所を設立するなど、北海道が抱えるピンチを国際化という視点でチャンスに変えることが出来るのではないのでしょうか。

#### 5 最後に

約1年強の駐在期間でしたが、タイにおける北海道人気、北海道の知名度は異常なほどに高く、まだまだ活かしきれていないと感じると同時に、本レポートでお伝えしたようにあらゆる可能性が存在し、道民が海外で挑戦する場所としてはとても良い環境であると実感しました。人口減少が進む日本において、今後ますます国内市場が縮小していく可能性があることから、多くの道民が海外に目を向けざるを得ない状況になっています。事業のグローバル化は一朝一夕では出来ませんから、今日からでも出来ることから構わないので海外に目を向けてみることをお勧めします。

道経済部国際経済課や海外駐在する道職員は、道民のみなさんのビジネスの国際化を後押しする活動を行っておりますので、一緒に取り組んでいきましょう。みなさま、これまで、私の海外駐在員現地レポートをご覧いただき、誠にありがとうございました。



タイで活躍するたくさんの方々の北海道出身者